

AFTERNOON TEA

山梨を満喫す

山梨大学医学部統合生理学

宇賀 貴紀

関西医大の眞田尚久先生からバトンを受け取りました。眞田先生とは、留学先の先輩後輩ということもあり、大変親しくさせていただいています。学会などで会ったら、ほぼ必ず飲みに行き、人にはなかなか話せないことを議論したりしています。そういえば数年前、以前勤務していた大学の近くで飲んでいたら、終電に間に合わなくなり、ラボで一夜を過ごしたこともありました。

私は長らく東京で勤務しておりましたが、2年前に山梨大学に異動しました。山梨大学医学部は甲府駅から南に約10kmの、田んぼに囲まれた小さなキャンパスにあります。東京からは2時間程度で来られますが、名古屋方面から遠いのが難点です。近年、脳科学に力を入れており、生理学2教室、薬理学教室、生化学教室を中心に、セミナーや国際シンポジウムを開催して脳科学を盛り上げようとしています。学内では新参者で、伝統的に続いてきた分野に肩を並べるには程遠いのですが、四苦八苦ししながら、いろいろな企画を催し、少しずつ認知されるようになってきました。

私はもともと山梨とは縁がありません。平日は大学近くの官舎に住んでいますが、週末は東京に戻る生活で、ようやく慣れてきました。山梨は周りを山に囲まれたきれいな場所です。特に、甲府盆地から見た冬の南アルプスは絶景でして、車で中央道を走ることの多い私にとっては、山梨入りする際の癒しになっています。近くには温泉がたくさんありますし、富士山や八ヶ岳などの観光地にも車で1時間程度で行くことができます。プライベートを山梨で過ごす時間は少ないのですが、直売場でぶどうや野菜を買ったり、週末に家族と清里に行ったり、ようやく山梨を満喫しはじめています。先日、家族で清里に泊まりましたが、星



山梨県立まきば公園にて

空がきれいで大変満足しました。

そして、山梨と言えばワインです。これまでもワインは日常的に飲んでいましたが、国産ワインはおいしくないという先入観がありました。そうではありませんでした。まだまだわかっていませんが、甲州ぶどうやベリーAのワインが、海外のワインでは到底味わえないものであることがわかってきました。とても、おいしいのです。最近、お客さんをお呼びして、皆で飲みに行くと、ワインの品評会みたいになります。えらい先生方がワインを持ち寄ることが多いのですが、皆さん、ワインのラベルをスマホで撮り、アプリで情報検索をし、星いくつ、とか議論しながら楽しんでます。お客さんは大抵山梨ワインがおいしいことに驚き、そしてあっという間に何本ものワインが空いてしまいます。飲みすぎにならないように気を付けながら、山梨を満喫するようまにころがけています。みなさん、是非、山梨に遊びに来てください。



名古屋大学大学院医学系研究科統合生理学

片岡 直也

鳥取大学医学部統合生理学の木場智史先生よりバトンを頂きました。現在私は、名古屋大学大学院医学系研究科統合生理学 中村和弘研究室に所属していますが、現住所は大阪府大阪市です。ここまで読まれてもう一度私の所属を再確認された方も多いと思いますが、間違いなく、私は大阪市民です。毎日、地下鉄と新幹線、JR 在来線を乗り継ぎ、名古屋市昭和区の名古屋大学鶴舞キャンパスまで通勤しています。通勤時間は1時間40分から50分程度で首都圏の先生方とあまり変わりませんが、新幹線定期代が我が家の家計に重くのしかかってきています。

ことの発端は2年前の妻の職場復帰にあります。3年前の2015年4月に中村研究室は京都大学から名古屋大学医学部がある鶴舞キャンパスに引っ越してきました。その際、我が家も育児休暇中の妻と生後半年の長男を連れて大阪市から名古屋市へ引っ越しました。名古屋での通勤時間は自転車で10分弱と短く、夕方19時過ぎには一旦帰宅し、長男をお風呂に入れ、寝かしつけてから研究室に戻る生活を送っていました（長男の夜泣きが酷いときは研究室に戻らず寝かしつけていました）。引っ越しから1年数ヶ月が過ぎた時、妻の仕事復帰先の部署が決まり、2016年の8月から大阪市内の製薬会社で仕事復帰することが決まりました。当初は私が名古屋大学の職員宿舎で単身赴任をしていましたが、長男もまだ小さく手がかかることから妻からのSOSを受けて、私も2017年2月に大阪市へ引っ越し、名古屋一大阪間の長距離通勤がスタートしたわけです。2017年2月から本アフタヌーンティーを執筆中の2018年12月上旬までの約480日間（土日はのぞき、大型連休ならびに夏季・冬季休暇含む）、1日往復の移動距離約

400km（正確には398.8km）。これまでの移動距離は地球を約4.8周分（地球一周4万kmとする）。定期代の総計、秘密。家族との時間、priceless。

長距離通勤を始めた頃は限られた時間で仕事をするのが難しく苛立ち、焦りを感じていましたが、半年を過ぎたあたりから限られた時間であっても集中して仕事を進めることが出来るようになってきました。

長距離通勤は時間もお金もかかり、とても有意義であるとは思えません。ただ、我が家には4歳の長男と1歳1ヶ月の次男がおり、2人とも風邪をよくひきますし、夫婦共働きであることなど大変な時期ですので、短期的にはこの長距離通勤も仕方ないと考えています（あと数ヶ月で2年が経過しますが）。私自身は大学の仕事や進めるべき研究がありますし、妻も責任のある仕事を会社から任せられています。その中での子育てはとても大変で、夫婦喧嘩も増えました。ただ、似たような時期に共働きと子育てを経験されてきた先生方は「もう、乗り切るしかない。子供が大きくなるまで耐えて乗り切るしかない。」と仰います。正直、私はこの言葉に心が救われました。辛いのは私たち夫婦だけではなく、日本全国、どの世代でも子育てや通勤などで苦労されている先生方は沢山いらっしゃる、その事がわかっただけでも、とても心が軽くなりました。新幹線車内でマナーの悪い乗客を見た時や、忙しい朝に着替えを拒む長男に悪戦苦闘しながら登園する時など毎日大変ではありますが、仕事と家庭の両立ができるプロの研究者として頑張っていこうと思います。

最後になりましたが、毎日子育てや生活を支えてくれている妻に感謝の気持ちを伝え、元気に育ってくれている子供達にもありがとうと伝えよ

うと思います。また、長距離通勤を寛大な心で許可してくださった中村和弘教授と、日々仕事を支えてもらっている研究室のメンバーにも心から感謝申し上げます。

随分とプライベートな内容になってしまいまし

たが、子育てと仕事の両立に悩んでいらっしゃる先生方にとって日々頑張っているのは一人では無く皆さん等しく大変である事が伝われば幸いです。